

けやき倶楽部歴史グループ分科会 9 月度活動報告（幹事会向）

日 時	2021 年 9 月 21 日（火） 10：30～12:00
場 所	オンライン分科会
参加者 氏	9 名
	<p>1. 会員発表 テキスト羽田正『東インド会社とアジアの海』</p> <p>(1.) Sky 「第三章 東アジア海域の秩序と日本の要約と所感」</p> <p><要約>①明帝国と東アジア海域の国際秩序</p> <p>②ポルトガル人の進出とイエズス会</p> <p>③日本の鎖国政策とオランダ東インド会社</p> <p><所感>江戸時代にとられた鎖国政策、この表現は見直しが必要ではないか</p> <p>江戸時代の経済も人口の伸びも順調な伸びを示している。また外国に開かれていた窓口は長崎出島口に限られておらず、対馬口、薩摩口、松前口の 4 か所で必要な海外品、情報、技術の導入が行われていた。</p> <p>(2) Sky 明が海禁政策をとるに至った事情をどう理解するか</p> <p>明の海禁政策とは、唐の時代の中華の栄光の再現めざした一連の政策の一環として行われたものである。しかし、先の 7.1 党創設 100 周年記念行事で繰り返された如く、今日の中国共産党指導下での同じ中華の栄光再現のスローガンは、民主主義の否定、言論弾圧、国際ルールの無視など、全世界の厳しい目をもものともせず、更に「中華」の捉え方では満蒙はおろか、チベット、ウイグルまで加えて厳格な同化策を行っている。海禁政策目的に関し、同じ言葉を使うことをためらったためではなかろうか</p> <p>(3) Tkd 「海禁＝朝貢政策」</p> <p>2021 年、中国共産党 100 周年大会で習近平は、「中華民族の偉大な復興」を目標に掲げた。マルクス・レーニン主義でないことは 2017 年の二期目の総書記就任時も同様でした。中華民族の偉大な復興とは、天の負託を受けた正当な皇帝、皇帝を頂点とした社会秩序の構築、皇帝のもと豊かで強い中国、周辺の異民族には朝貢が要求できる、そんな中華帝国にすること。洪武帝も中華帝国を目指したのではないだろうか。</p> <p>(3) 参考 Wkb 「海禁について」</p> <p>○もともと明が海外諸国に積極的に朝貢を促したのは、朝貢国の増大だけを期待してのことではない。その目的は明を中心とした国際秩序の確立にあり、元・明交替期の混乱で崩壊した国際秩序を再確立し、東アジアに安定をもたらすことにあった。海洋政策には政治(海防・朝貢体制)と経済(海外貿易)との両面があるが、政治が経済に優先した明初では、海外貿易よりも国際秩序の確立が重視され、そこから生まれたのが海禁＝朝貢システムである。</p> <p>今後の予定一次回オンライン分科会 kannjikai 開催日時：2021 年 10 月 19 日（火） 10:30 -12:00 テーマ：第四章「ダイナミックな移動の時代」、及 Uuk 会員資料</p>

